

ネオニコチノイド系水和剤を利用した ダイズ吸実性カメムシ類の省力防除法

カメムシ類の防除回数と散布量が半分になります



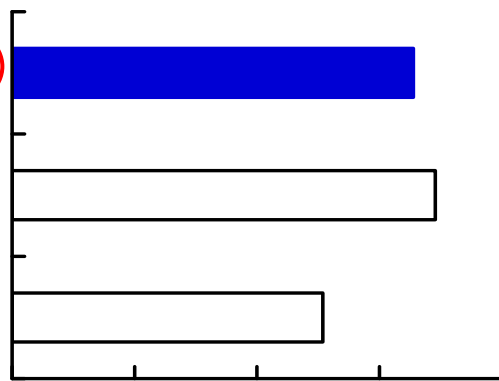
- カメムシ類の発生が少～中程度のほ場では、
防除回数が2回から1回に減ります
(散布時期は開花30～35日後です！！)
- ほ場への散布量が200～300リットル／10aから
100～150リットル／10aに減らせます

大豆カメムシに対するネオニコチノイド系水和剤の防除効果

ダントツ水溶剤
1回散布

トレボン乳剤
2回散布

トレボン乳剤
1回散布



※ダントツ水溶剤
2000倍、100L/10a
開花30～35日後散布)

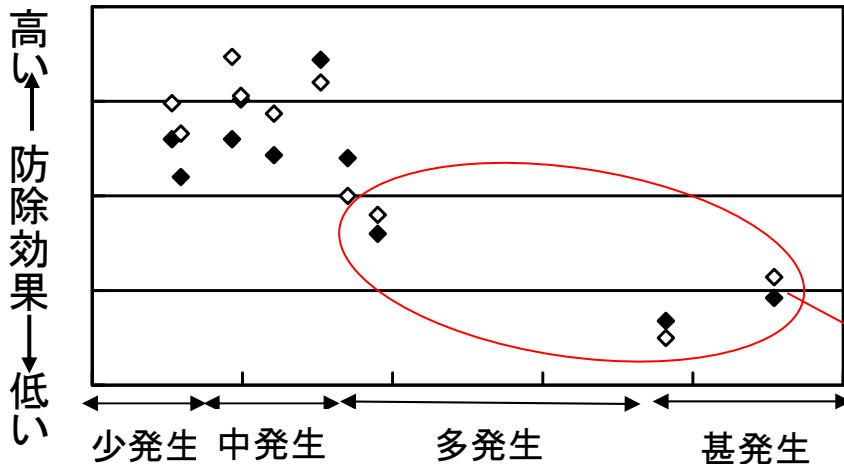
※トレボン乳剤
1000倍、200L/10a
1回散布:開花30～35日後
2回散布:開花30日後、40日後

※無処理の発生程度 中発生

低い ← 防除効果 → 高い

既存剤(トレボン乳剤)2回散布と同程度の効果

大豆カメムシの発生程度とネオニコチノイド水和剤の防除効果の関係



※ダントツ水溶剤
2000倍、100L/10a
開花30～35日後散布)

※トレボン乳剤
1000倍、200L/10a
開花30日後、40日後
散布

発生が多い年、常発地では効果がやや不十分なので、開花30～35日とその10日後の2回散布を基本として下さい

注意事項

- 必ず展着剤を混用し、薬剤が莢にかかるように丁寧に散布して下さい。
- カメムシ類防除を2回行う場合、薬剤抵抗性害虫の発生を防止するため、2回目の防除には他系統の殺虫剤を使用する。
- 2009年4月現在、ネオニコチノイド系水和剤として、ダントツ水溶剤、ダントツフロアブル、ダントツEXフロアブル、スタークル顆粒水和剤、アルバリン顆粒水和剤、スタークル液剤10およびスタークルメイト液剤10がダイズのカメムシ類に対して農薬登録されています。使用にあたっては、必ず最新の登録情報を確認して下さい。

(問い合わせ先)

鳥取県農林総合研究所 農業試験場 環境研究室
TEL:0857-53-0721

※ 本書から転載複製する場合には必ず農業試験場の許可を受けて下さい